

# YOTSUBA の 風



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 学校通信 第9号 令和4年9月22日発行

## 令和4年度 全国学力学習状況調査 結果

〔4月19日実施 対象：第3学年〕

今回の結果では、前回（令和3年度）と同様に、調査が行われた国語及び数学において、全国・群馬県の平均を大きく上回る結果となりました。また、学力差を表す数値が低く、校内の学力差が小さいといえます。今回実施された国語、数学及び理科の3教科における本校の結果について概要をお知らせします。

### 【国語】

全ての問題において、全国・群馬県の平均を大きく上回る高い正答率で、本校の生徒が基礎的な知識を概ね身に付けていると言える結果でした。特に、全国平均と比較して著しく正答率の高かった問題として、「話の進め方」「スピーチの工夫」「表現技法」などが挙げられ、本校の各教科で力を注いでいる表現活動で学んでいることが、定着していると考えられます。また、特筆すべき点として、全体を見ても無回答がほとんどおらず、難しい問題に対しても、最後まで粘り強く取り組む姿勢が身に付いていると言えます。そのことは、学習状況調査の結果を見ると、解答を文章で書く問題について「どのように解答しましたか」という設問に対し、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が90%という数値からも伺えます。また、全体を通して「(回答時間が) やや足りない」と回答した生徒は3%ほどという、全国、県の平均（いずれも11%強）と比べても低い数値であることから、解答に必要な基礎学力は概ね身に付いていると考えられます。

逆に、今回正答率が低かったのは、資料の一部から必要な情報を引用し、自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くという問題です。授業中に根拠を明確にして発言、文章表現をすることを意識させ、書く機会を適切に設けることで改善していく必要があると考えています。

### 【数学】

数と式、図形、関数、データの活用の4つの分野全てにおいて、全国平均正答率を上回る正解率となりました。特に、「説明する」「証明する」などの問題においては、全国平均正答率から30ポイント近く上回る結果となりました。本校での学習活動を通じて、自分の考えを筋道立てて表現する力が育まれていることが読み取れます。

学習状況調査からは「数学の勉強は好きである」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は75%以上となりました。また、「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対しては、全国平均正答率と比べて20ポイント以上高い割合で「当てはまる」と答えています。授業に対して意欲的に取り組みながら、数学の有用性についても前向きに取り組んでいる生徒が多いことがわかります。

一方で、複数のヒストグラムを比較しながら自分で解答を作らなければならないような問題に対して、一部の条件のみを用いて解答する生徒の割合が多いという課題もみられました。今後は、設問の条件を満たしながら論理的な解答をする力の育成を図り、これからの時代に求められる学力の伸長を目指していきたいと考えます。

## 【理科】

今回の調査では、中学理科の全国正答率が5割を下回る結果でしたが、本校では全体を通して、高い正答率でした。具体的には、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする4領域の全てにおいて、全国・群馬県の正答率を大きく上回っています。また、記述式問題の正答率がとても高く、無回答率はとても低い値となっていました。これらのことから、基礎的な知識を概ね身に付けており、知識を単に暗記しているだけでなく、考え方をきちんと身に付け、それを活用できる生徒が多いことが分かります。

質問紙調査では、特に「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか」、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」、「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国・群馬県の平均を大きく上回っていました。このことから、本校の生徒たちは、理科で学習した内容を普段の生活や将来に結び付けて考えられている生徒が多いことが分かります。

一方で、力の「はたらき」に関する部分で、他の問題と比べると若干の課題が残りました。今後、3年生でも再度スパイラル的に学習していく中で、きちんとした定着を図り、更なる学力の伸長を目指していきたいと考えます。

## 【全体総括】

国語及び数学、理科において、前述の通り本校の生徒が着実に力を付けていることが分かりました。全国や群馬県の平均を大きく上回る結果や無解答率が非常に少ない本校の生徒の傾向から、四ツ葉学園が日頃から行っている「なぜそうなるのか」「なぜそうであるのか」という理由や根拠を考えることで教科の本質に迫る授業により、生徒が深い学びにつなげていることがわかります。今後も、学習内容をさらに充実させ、生徒の持っている様々な力を伸ばしていきたいと考えています。

学力調査と並行して行われた学習状況調査の結果から、全国や群馬県の平均と比較して本校の特徴が見られる傾向を整理すると以下の通りになりました。「学校行くのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、「当てはまる」と回答した生徒が平均を大きく上回っていました。学校で友達と関わり合いながら、意見交流することの楽しさを感じているようです。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」については「よくしている」と答えた生徒が平均から15ポイント以上高く、「学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか」については「4時間以上」と答えた生徒が平均から18ポイント近く高く回答していました。自分を律しながら、意識高く学習に取り組んでいることがわかります。以上から、本校の研修主題である『四ツ葉の学び』のうち「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する学び」が一定の成果を上げていることがわかりました。

一方で、以下のような課題も見られました。「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」などの質問については、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均に近い値となりました。志や学力の高い集団の中で、十分な自己肯定感を持ってない生徒がいることが明らかになりました。これらの課題について職員間で連携を図り、引き続き学力向上に取り組むと同時に、様々な活動の中で生徒一人ひとりの良さやがんばりなどを互いに認め合えるような活動を取り入れ、自己肯定感を高めていくよう努めます。